



決算説明資料

2026年3月期
第3四半期

2026.1.28 アイザワ証券グループ株式会社 証券コード:8708

≡ アイザワ証券グループ



Agenda

サマリー P 2

KPIの進捗状況 P12

中期経営計画 P16

本資料に関して

本資料は、2026年3月期第3四半期決算の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料は2025年12月末日現在のデータに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとご家族の人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にしている価値観

チャレンジ

リレーション
シップ

プロフェッショナル
リズム

チームワーク

PVVイメージ動画

PVVのイメージ動画をアイザワ証券グループホームページに掲載しております。
<https://www.aizawa-group.jp/company/pvv.html>



アイザワ宣言

お客さまへ

私たちはお客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

株主の皆さまへ

私たちは持続的な成長を通じて
企業価値向上に努めます

社会へ

私たちは地域との繋がりを大切に
社会の発展に貢献します

従業員の皆さんへ

私たちは社員一人ひとりを尊重し
成長と挑戦を後押しします

営業収益

15,547 百万円

前年同期比: + 2.2%

ストック商品預り資産

5,718 億円

前四半期比: + 10.7%

親会社株主に帰属する純利益

2,076 百万円

前年同期比: △ 24.8%

総預り資産

2兆4,430 億円

前四半期比: + 5.8%

ROE

6.1%

(2026年3月期3Q累計利益を年率換算)

前期比: △ 0.2pt

実質ストック収益^{※1} 実質販管費カバー率^{※2}

33.6%

前期比: + 4.9pt

※1 実質ストック収益: 信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額

※2 実質販管費: アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

社長メッセージ

当社は証券事業の変革というきわめて大きな改革を実行しており、「お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者」となることを目指し、**ゴールベースアプローチ(GBA)型営業**を推進しております。お客さまのライフプランの実現に向けて長期にわたり伴走支援し、相場環境に左右されにくい安定収益の確保に努め、**安定的に連結ROE 8%以上を達成できる収益構造への転換**を図っております。

第3四半期(累計)は、主軸である証券事業において前年同期比増収増益となった一方、投資事業において一部運用損失を計上した影響により、営業利益が大幅な減益となりました。親会社株主に帰属する純利益は、好調な相場環境により特別利益(投資有価証券売却益)を計上したため、一定の水準を確保することができました。

証券事業はGBA型営業の徹底により、中期経営計画のKPIの一つである**ストック商品(投資信託とラップ商品)預り資産が想定を上回るペースで増加し**、将来の利益拡大に向けた変革が着実に進展しております。この第3四半期の活動は来期以降に繋がっていくものと確信しております。

ROE目標の達成と株価及びPBRの継続的向上を図り、**資本コストや株価を意識した経営**を実現するため、不退転の決意で引き続き改革を進めてまいります。

資本コストや株価を意識した経営

資本コストを安定的に超える利益を計上できる事業構造へ変革することで企業価値向上を目指す
毎年度のROE水準を意識すると同時に、安定的にROE8%以上を達成できる事業構造・収益構造への変革を行い、
中期的な企業価値向上を目指す方針

企業価値の向上に資する各種施策

PBRの向上(企業価値の向上)

ROE向上施策×PER向上施策

証券事業の変革

株主還元策

投資事業のグレードアップ

IR強化

運用事業の再構築

人的資本投資への取組み強化

生産性の向上

サステナビリティ推進

コンプライアンスの強化

リスク管理の強化

財務戦略

連結貸借対照表

2025年3月末

総資産 1,095億円

流動資産
700億円負債
619億円固定資産
394億円純資産
475億円

将来イメージ

総資産

流動資産

負債

固定資産

純資産

財務レバレッジの活用

財務レバレッジの活用等による資本効率重視の財務戦略を実行し、効率的な事業運営を行う。

社債の発行

財務安定性の向上を企図し、将来の成長に必要な資金を機動的に調達することを目的として社債を発行。
2025年12月末時点で残高121億円。

「お客さまとそこそご家族の資産運用・資産形成の伴走者」としてのビジネスモデルを確立し、
安定的にROE目標を達成できる事業構造・収益構造に転換する3年間と位置付ける

アイザワの目指す「伴走者」とは

お客さまとそこそご家族の資産運用・資産形成に関して、継続的に話を傾聴し、それぞれのライフステージに合った
提案・アドバイスを送り、世代を超えて対話を続ける、**長期にわたる人生のパートナー**です。

環境認識

「対面による継続的対話・
アドバイス」へのニーズの高まり

- 「貯蓄から投資へ」の大きな流れにより、個人の資産運用・資産形成の関心が集まる
- 長期目標に対して、**対話による継続的アドバイスへのニーズ**が高まっている

中期経営計画 (2025年4月～2028年3月)

事業構造・ 収益構造の転換

- 「ゴールベースアプローチ型」営業と「地域密着」を徹底することで「継続的・長期的にお客さまに寄り添う」価値を提供
- 毎年度の利益水準に注意しつつ、**中期的な企業価値の向上を最優先**

当社が目指す将来の姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとそこそご家族の
人生の伴走者となる

- 長期にわたる人生のパートナーとして、**お客さまとそこそご家族の人生の伴走者**となる
- 市況に左右されない、安定的な経営体制を実現し、**安定的にROE目標を達成**

ゴールベースアプローチ(GBA)型営業の徹底

「お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者」となることを目指し、GBA型営業を推進

- スtock商品(投資信託とラップ商品)預り資産の増加
- 相場に左右されにくい安定的な収益構造を構築することに寄与
- アイザワ宣言(お客さまへ)の実践に結びつく



アイザワ証券が目指す

ゴールベースアプローチ(GBA)型営業とは

- お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供
- 個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援



投資の目的

- 将来の計画やライフスタイルの実現に向けたゴールの達成



アイザワ証券の
提供価値

- ゴール達成のためのプラン提供
- ライフプランに沿ったトータルサポート
- ゴール達成に向けたサポート・フォロー
- ソリューションサービスの提供



お客さまとの関係性

- お客さまのライフプランに寄り添えるようなリレーション

アイザワ宣言(お客さまへ)の実践へ

私たちは、お客さまの未来を見据えた
金融サービスを提供します

お客さまとご家族が資産運用・資産形成の
ゴールを実現するまで寄り添います。

継続的にお客さまとご家族と対話することで、
長期にわたるパートナーとなります。

お客さまからの信頼を最優先に考え、
目先の利益を追求する取引・提案をしません。

—— ゴールベースアプローチ（GBA）型営業を推進する試行店の取組み

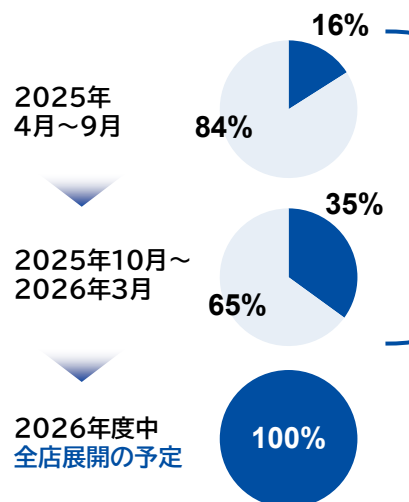
試行店（GBA型営業のサービス提供に変化した姿を体現する店舗）における、2025年10月～12月のヒアリング件数の増加^{※1}

- 2025年4月に5支店からスタートした試行店は、2025年10月に6支店追加しアイザワ証券全支店の1/3ほどに拡大
- 社長のタウンホールミーティング実施により、改革の方向性が現場まで着実に伝わった^{※2}
- ご家族を交えた面談を意識的に行ったことで、ご家族に関するゴール設定が3割を超えた

※1 ヒアリングとは、家族構成や資産状況、価値観などお客さまのことを深く知るGBAプロセスにおける重要なステップのひとつ ※2 タウンホールミーティングについてはP.18をご参照ください。

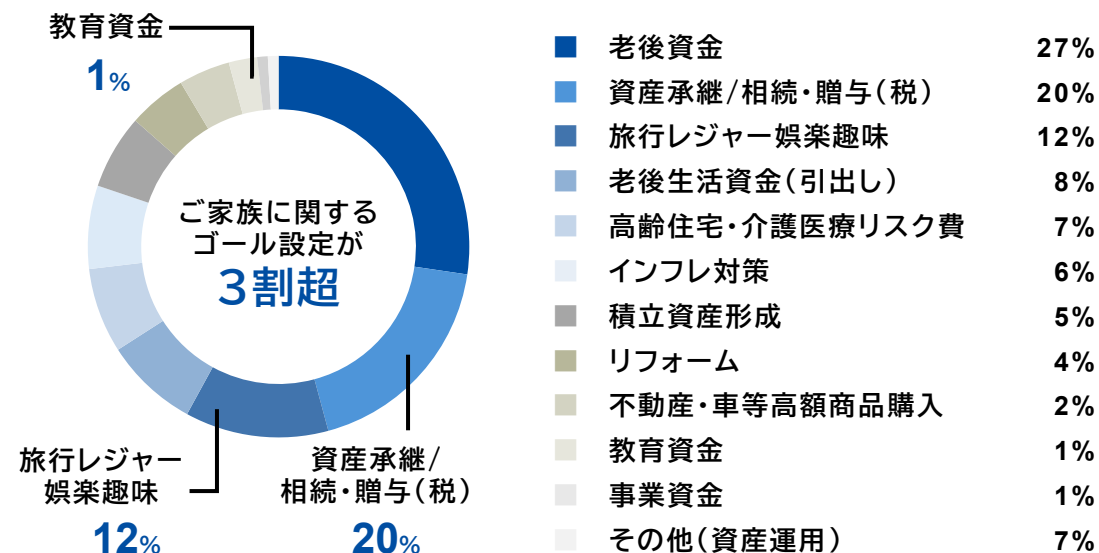
試行店の取組み

■ 試行店 ■ 従来店（コンサルティングプラザを除く）



GBA型営業における契約ゴール種別

※ 2025年10月～12月の契約分

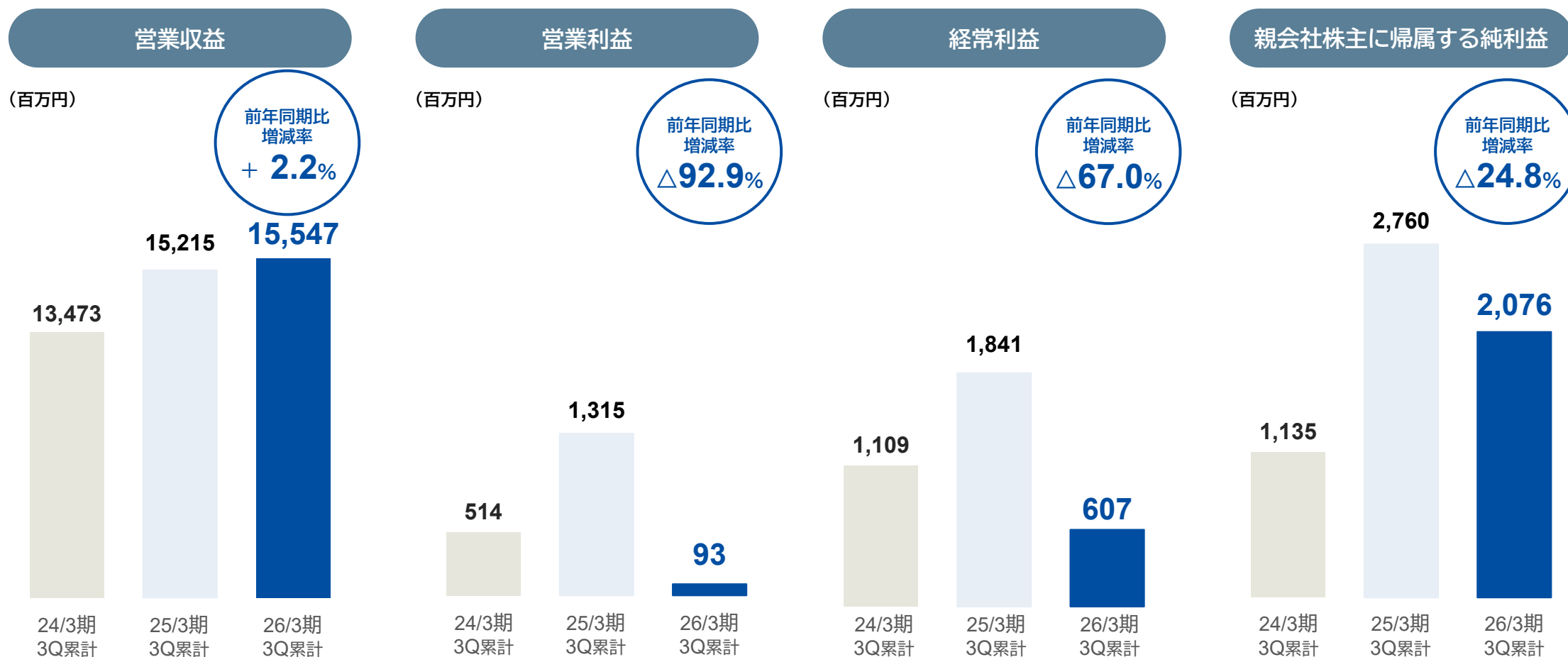


2026年3月期3Q累計

決算概要(過去同期比累計) - [連結]

アイザワ証券グループ

- 営業収益は、株式委託手数料や信託報酬の増加により、前年同期(2025年3月期3Q累計)比2.2%増収
- 営業利益は、投資事業における運用損失4億89百万円の計上等により、同92.9%減の93百万円
- 親会社株主に帰属する純利益は、特別利益(投資有価証券売却益)の計上により、同24.8%減の20億76百万円



2026年3月期3Q

決算概要(四半期推移) – [連結]

アイザワ証券グループ

- 営業収益は、前四半期(2026年3月期2Q)比1.5%減の56億9百万円
- 販売費・一般管理費は、同1.3%減の50億33百万円
- 営業利益は、同8.4%減の3億19百万円
- 親会社株主に帰属する純利益は、投資事業の有価証券売却等による特別利益の計上で同23.1%増の10億75百万円

(百万円)	25/3期		1Q	26/3期		25/3期 3Q比 増減率	26/3期 2Q比 増減率	25/3期 3Q累計	26/3期 3Q累計	前年同期比 増減率
	3Q	4Q		2Q	3Q					
営業収益	5,681	5,372	4,242	5,695	5,609	△1.3%	△1.5%	15,215	15,547	+2.2%
販売費・一般管理費	4,618	4,597	4,575	5,097	5,033	+9.0%	△1.3%	13,538	14,707	+8.6%
営業利益又は営業損失(△)	1,009	570	△576	349	319	△68.3%	△8.4%	1,315	93	△92.9%
経常利益又は経常損失(△)	1,182	729	△337	446	498	△57.8%	+11.8%	1,841	607	△67.0%
税引前利益	1,776	756	388	1,172	1,462	△17.7%	+24.7%	3,894	3,023	△22.4%
親会社株主に帰属する純利益	1,233	412	127	873	1,075	△12.8%	+23.1%	2,760	2,076	△24.8%
1株当たり 四半期純利益(円)	39.72	13.28	4.09	28.04	34.54	—	—	86.64	66.74	—

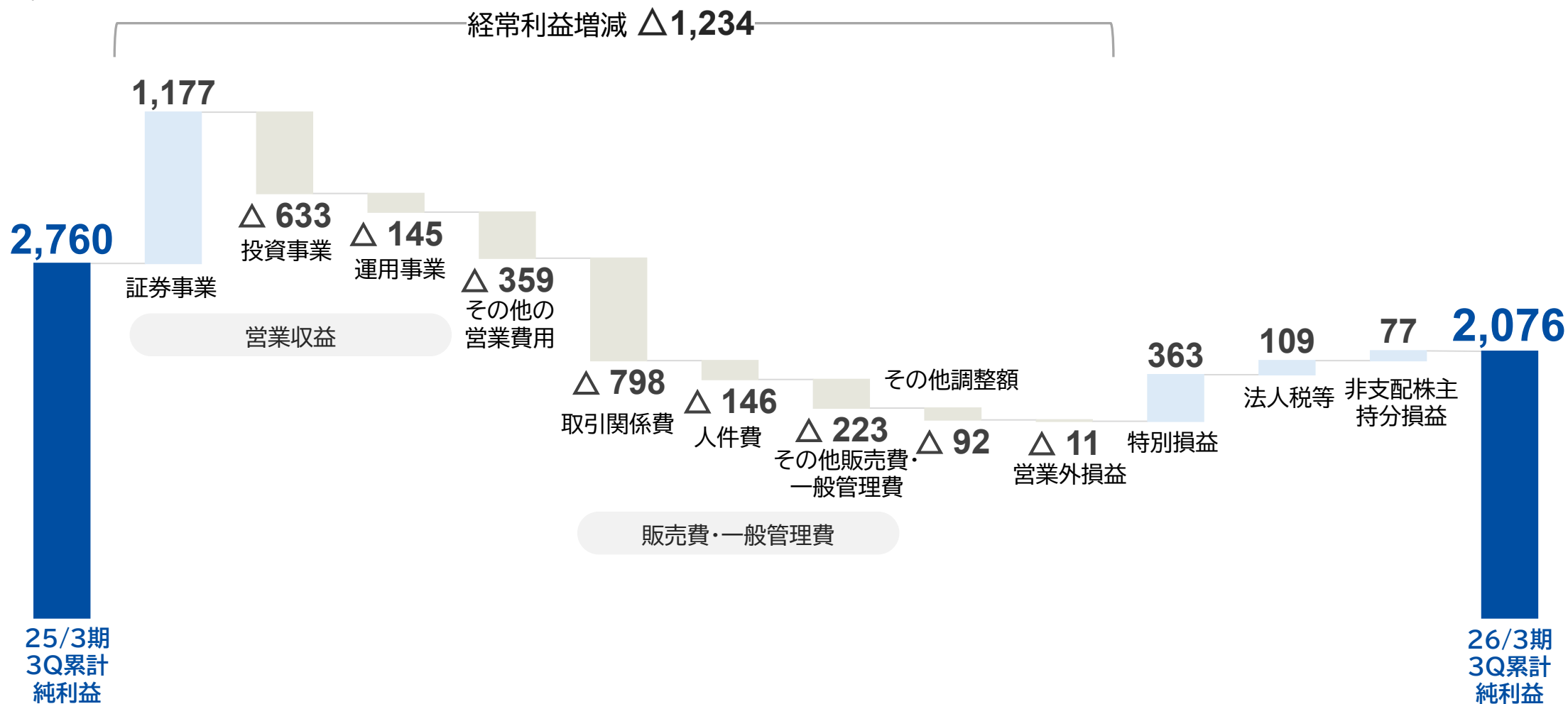
2026年3月期3Q累計

純利益 増減要因- [連結]

アイザワ証券グループ

- 証券事業の営業収益は、株式委託手数料や信託報酬が増加したことにより、前年同期（2025年3月期3Q累計）比11億77百万円増加
- その他の営業費用は、投資事業における運用損失の計上により、同3億59百万円増加
- 取引関係費が金融商品仲介業者への仲介手数料等により7億98百万円増加した結果、販売費・一般管理費は同11億68百万円増加

(百万円)



アイザワ証券グループ



証券事業

お客様の資産形成をサポートするため、資産運用コンサルティング等を行う

営業収益

14,938
百万円

前年同期比
+ **8.6%**

税引前利益

780
百万円

前年同期比
+ **24.4%**

- 株式委託手数料や信託報酬が増加したことにより営業収益増加



投資事業

有価証券、不動産、成長企業に対して自己投資を行う

営業収益

590
百万円

前年同期比
△ **51.8%**

税引前利益

1,620
百万円

前年同期比
△ **46.4%**

- 一部運用損失を計上
- 投資ポートフォリオの入替により投資有価証券売却益計上



運用事業

機関投資家を中心にオルタナティブ運用等の運用サービスを提供

営業収益

148
百万円

前年同期比
△ **49.5%**

税引前利益

△ **291**
百万円

前年同期比
－%

- 運用するファンドの経費を運用事業にて計上
- ファンドの償還による費用増加

貸借対照表 - [連結]

資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期3Q	増減率
流動資産	70,047	94,859	+35.4%
現金・預金	14,405	38,102	+164.5%
預託金	24,783	27,752	+12.0%
営業投資有価証券	11,230	11,239	+0.1%
信用取引資産	15,478	13,179	△14.9%
信用取引貸付金	15,190	12,716	△16.3%
その他の流動資産	4,149	4,585	+10.5%
固定資産	39,481	42,486	+7.6%
有形固定資産	11,211	11,280	+0.6%
投資その他の資産	28,237	31,172	+10.4%
資産合計	109,529	137,346	+25.4%

主な増減要因

現金・預金	預り金の増加により現金・預金が増加
短期社債	将来の成長に必要な資金を機動的に調達できる体制を構築することを目的として、無担保社債を発行
純資産	保有株式の上昇によってその他有価証券評価差額金が増加

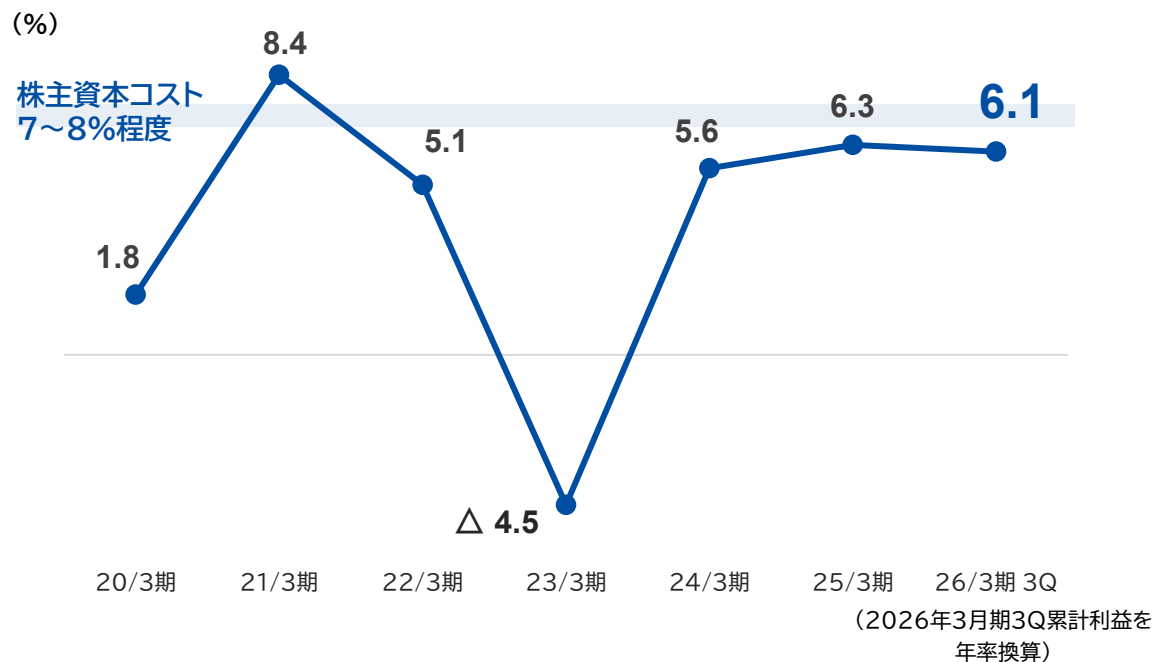
負債・純資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期3Q	増減率
流動負債	51,150	76,615	+49.8%
信用取引負債	4,722	2,218	△53.0%
預り金	23,291	46,646	+100.3%
顧客からの預り金	18,927	23,030	+21.7%
その他の預り金	4,363	23,616	+441.2%
短期借入金	9,675	8,213	△15.1%
短期社債	6,000	12,100	+101.7%
固定負債	10,618	11,776	+10.9%
長期借入金	5,156	4,901	△4.9%
負債合計	61,929	88,564	+43.0%
純資産の部			
株主資本合計	35,557	34,634	△2.6%
うち自己株式	△8,508	△8,440	-
その他の包括利益累計額	9,007	11,190	+24.2%
その他有価証券評価差額金	7,968	10,419	+30.8%
純資産合計	47,599	48,781	+2.5%
負債・純資産合計	109,529	137,346	+25.4%

ハイライト

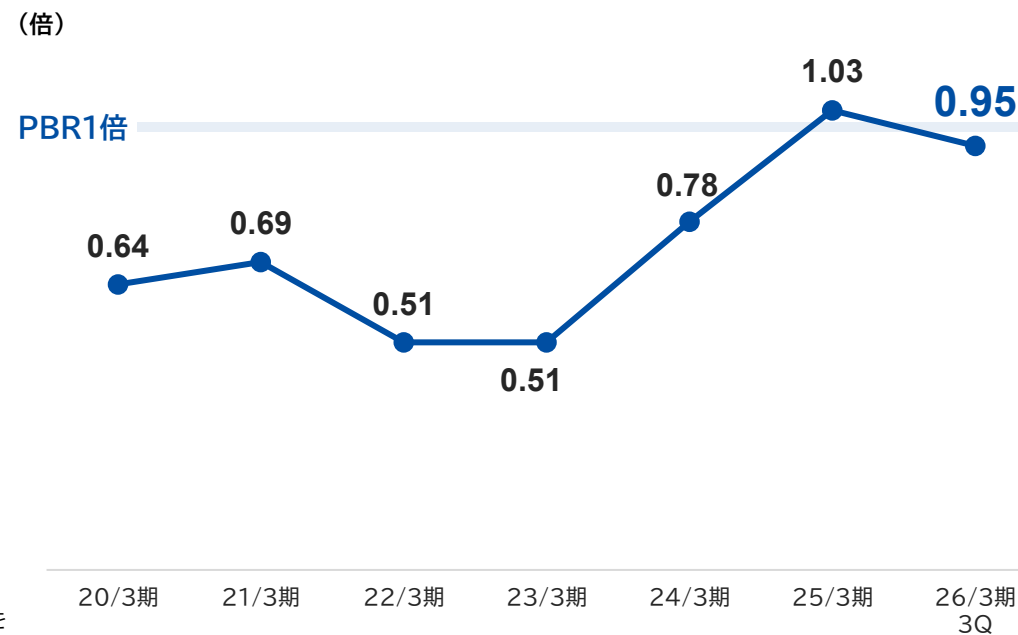
ROEは当社の認識する株主資本コストを下回り、PBRは1倍を割れているが、事業構造・収益構造の変革を通じて、安定的なROE8%以上の達成と株価及びPBRの継続的向上を図り、資本コストや株価を意識した経営の実現に努めている。

- ROE…6.1%(2026年3月期3Q累計利益を年率換算)
- PBR…0.95倍

ROEの推移



PBRの推移



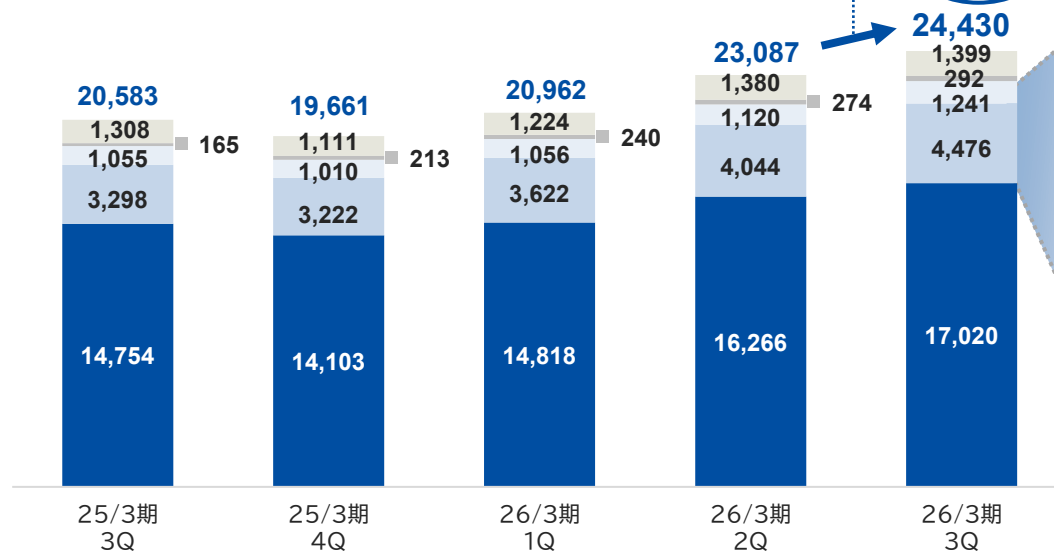
ハイライト

- 総預り資産及びストック商品預り資産ともに過去最高額を更新
- ゴールベースアプローチ型営業とプラットフォームビジネス[※]の推進によりストック商品の残高が積み上がり、相場の追い風もあり想定を上回るペースで預り資産が増加

※プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス

総預り資産の内訳と推移

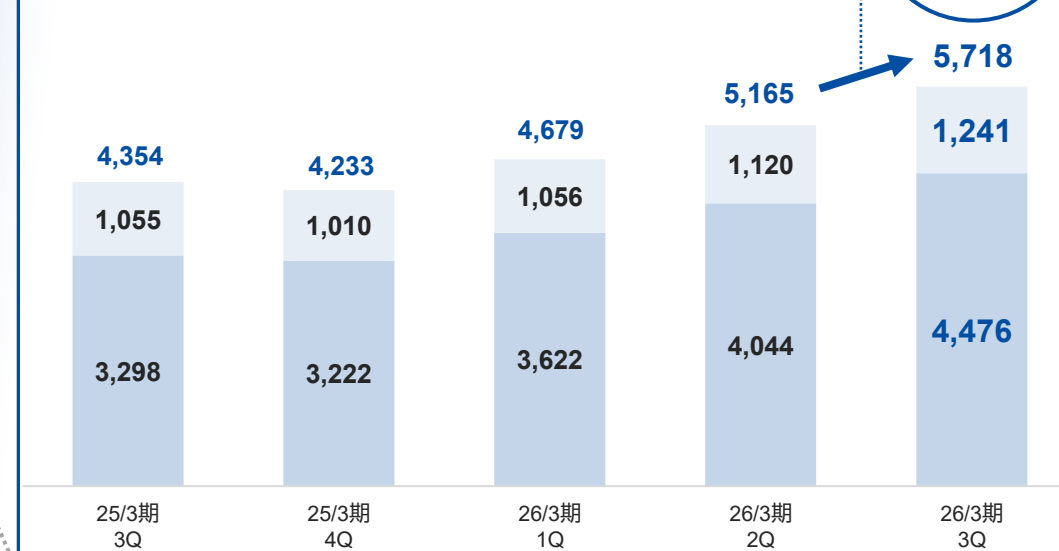
(億円) ■株式 ■投資信託 ■ラップ商品 ■債券 ■その他



26/3期
2Q比 増減率
+5.8%

ストック商品預り資産の内訳と推移

(億円) ■投資信託 ■ラップ商品



26/3期
2Q比 増減率
+10.7%

ハイライト

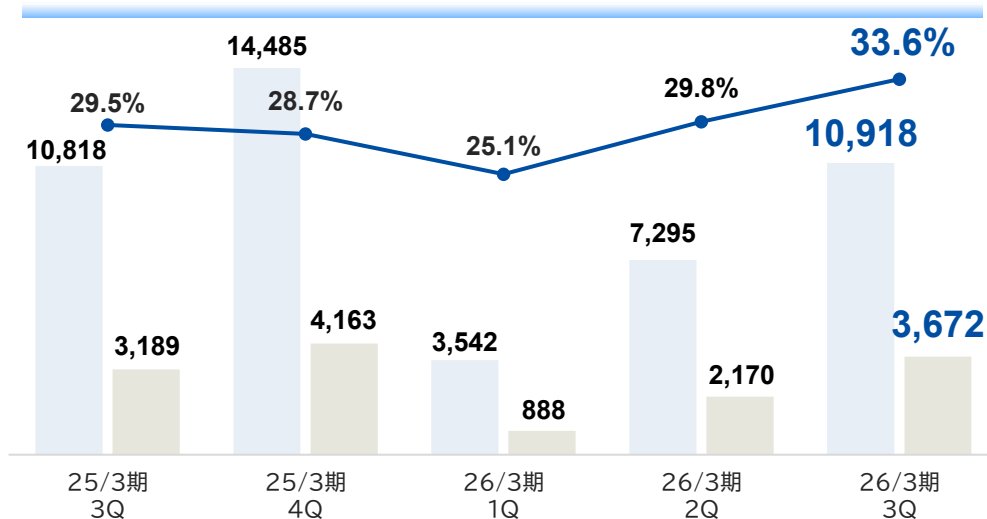
2026年3月期3Q累計の実質ストック収益 実質販管費カバー率は33.6%となり、2025年3月期累計比4.9pt増

- 実質販管費は、前年同期（2025年3月期3Q累計）より1億円増加
- 実質ストック収益は、信託報酬の増加に伴い、同4億83百万円増の36億72百万円

実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(年度累計)

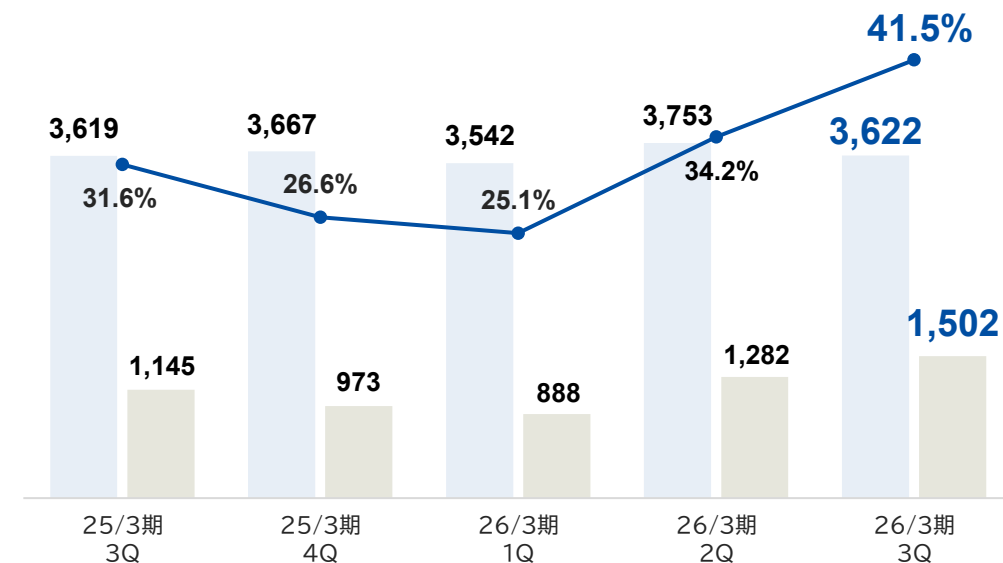
(百万円) 実質販管費 実質ストック収益 実質ストック収益 実質販管費カバー率

目標40%以上



実質ストック収益 実質販管費カバー率の推移(四半期別)

(百万円) 実質販管費 実質ストック収益 実質ストック収益 実質販管費カバー率



利益還元に関する基本方針

2024年4月26日に公表したとおり、2025年3月期から2028年3月期の間、
配当と自己株式取得による株主還元を総額200億円以上実施する

※総還元性向：（自己株取得金額＋普通配当総額）÷純利益

※DOE：普通配当金額÷株主資本

総還元
性向

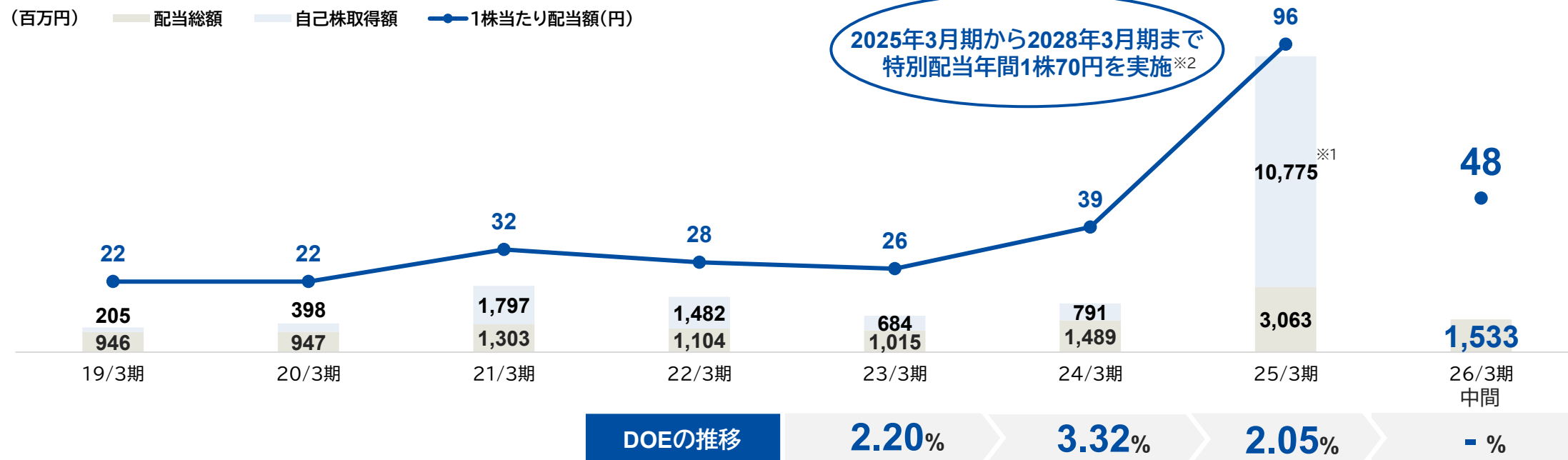
50%以上

株主資本
配当率
(DOE)

2%超

株主還元の推移

(百万円) 配当総額 自己株取得額 1株当たり配当額(円)



※1 2025年3月期に自己株式の取得(取得株数6,163,900株、取得価額の総額10,775,065,200円)を実施

※2 特別配当の金額は、2024年4月26日時点で入手可能な情報に基づく一定の前提(仮定)及び将来の予測等に基づき見込んでいる金額であり、今後、分配可能額規制その他の法令上の規制や経営環境の変化等の事情により変動する可能性があります。

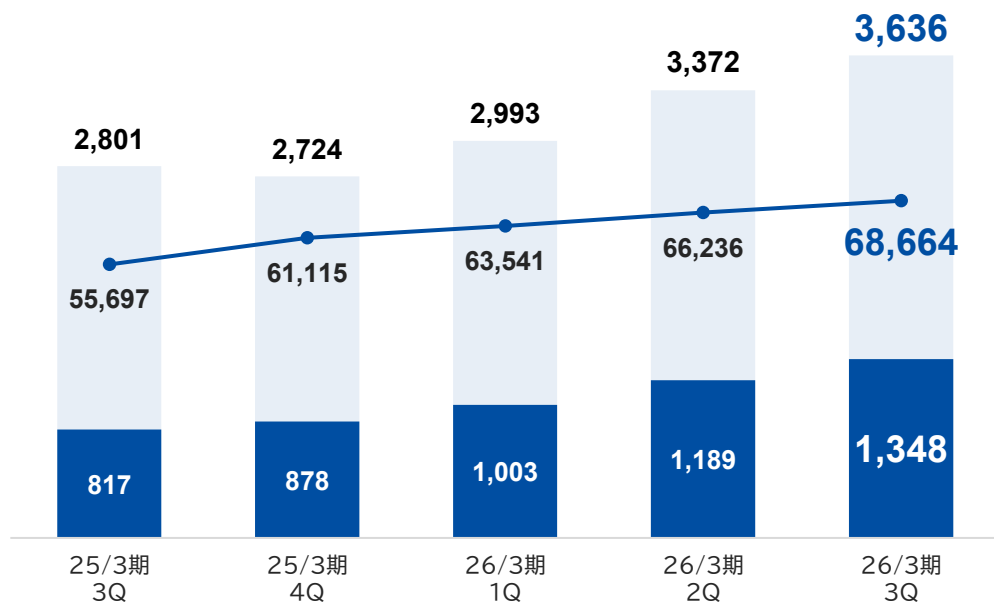
※ アイザワ証券のプラットフォームビジネスの特徴

- 金融商品販売を本業としないIFA業者(主に保険代理店)や預金金融機関を手厚くサポート
- 資産形成層のお客さまの積立投資口座の獲得と積立金額の増加に取り組む
- 顧客基盤の拡大を図る

※プラットフォームビジネスとは、アイザワ証券がプラットフォーマーとなり、提携する金融商品仲介業者(IFA業者)や預金金融機関が取引を媒介し、個人のお客さまにサービスを提供するビジネス

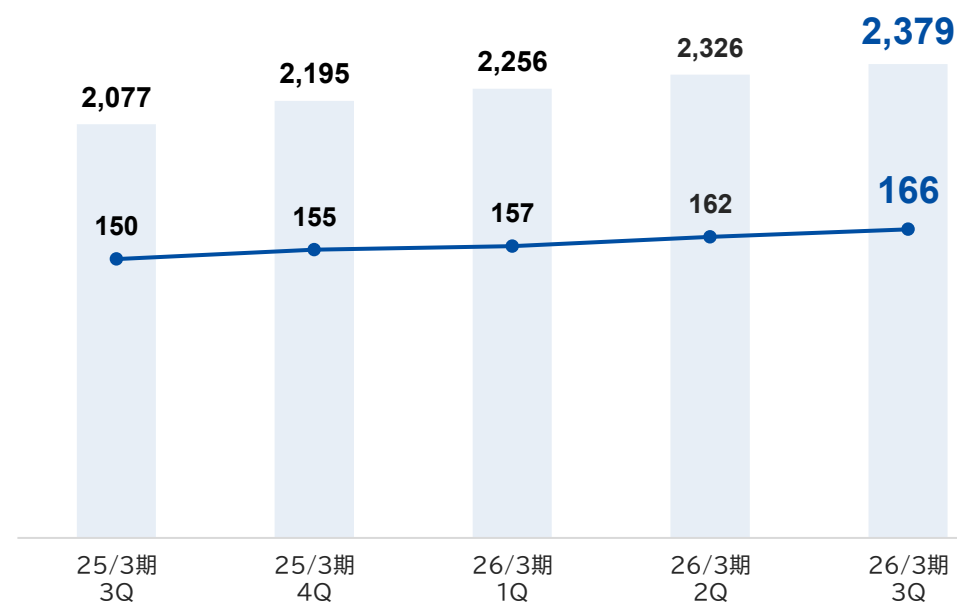
プラットフォーム預り資産(うちストック商品預り資産)

(億円) ■ プラットフォーム預り資産 ■ スtock商品預り資産 ● 口座数(口座)



契約金融商品仲介業者数

■ 契約外務員数(人) ● 契約金融商品仲介業者数(社)



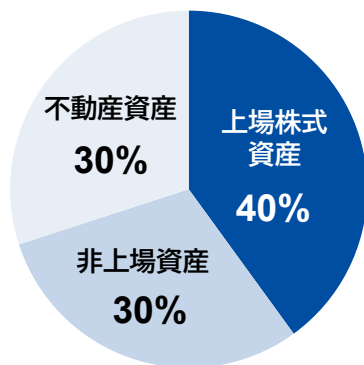
※プラットフォームビジネスの口座数：提携IFA業者や金融機関経由で開設された有効口座数

- 投資事業…グループ連結業績の安定化と資産収益性向上に貢献するもうひとつの柱と位置付ける
ポートフォリオのリバランスを目的とした投資有価証券の売却による特別利益を計上
- 運用事業…非上場市場で取引される資産であるプライベートアセットの運用資産残高増加に注力

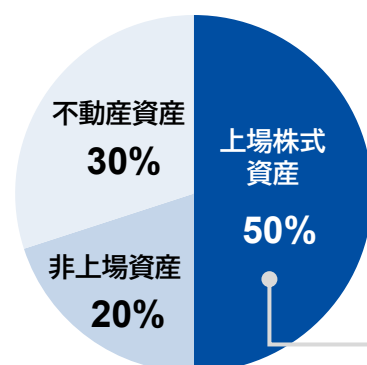
投資事業のグレードアップ

投資資産の構成

(基本方針)



(2025年12月末時点)



2025年4月～12月の

上場株式資産売却益累計(特別利益の計上)

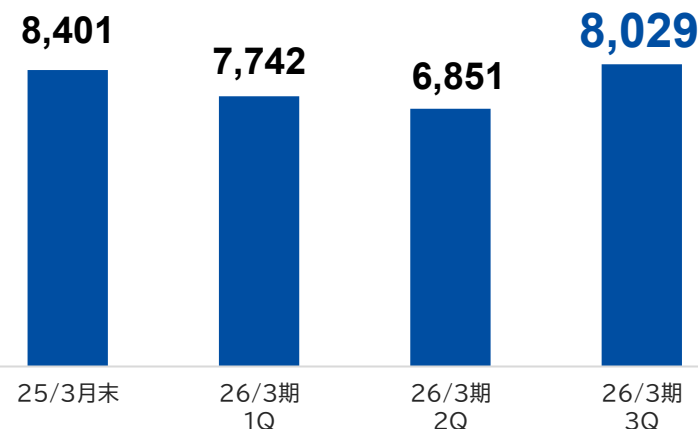
2,009百万円

- 各資産の特性に応じた収益の獲得により、中期的な投資収益の極大化を目指す
- 上場株式、不動産資産で利益を計上しながら、非上場資産で中期的な利益の最大化を目指す

運用事業の再構築

- あいざわアセットマネジメントは、たましま地域活性化投資事業有限責任組合(愛称:たましまファンド)を設定(詳細は次ページ)
※資産計上は2026年3月期4Qを予定
- 資本増強を目的として増資を実施
- 新ファンドの立ち上げにより運用資産残高増加

(百万円) ■ プライベートアセット運用資産額

26/3期2Q比
運用残高

+1,178

百万円

- 2025年4月に企業理念を刷新し、パーパス・ビジョン・バリュー(PVV)[※]とアイザワ宣言を策定し、周知・浸透を図っている
- 運用事業において、たましま地域活性化投資事業有限責任組合を設定

※ PVV・アイザワ宣言はP.1をご参照ください。

社長タウンホールミーティング

パーパス・ビジョン・バリュー(PVV)とアイザワ宣言の周知・浸透を図るため、藍澤社長がアイザワ証券の全支店及び本社全部署においてタウンホールミーティングを実施しました。

タウンホールミーティングの目的

- 全従業員を対象に社長自らPVVとアイザワ宣言について説明
- 経営陣が事業構造・収益構造の転換に本気で取り組んでいる熱量の共有
- 対話形式で全従業員が納得できるまで忌憚のない意見交換

従業員から出た意見

- 長年慣れ親しんだ旧経営理念から「証券投資を通じ」がなくなったが、むしろ選択肢が広がり、お客さまに寄り添いやすくなったと感じた。
- 会社が変化する重要な3年間を一緒に走れるのは貴重な機会だと思う。



たましま地域活性化投資事業有限責任組合の設定

あいざわアセットマネジメントは、たましま地域活性化投資事業有限責任組合(愛称:たましまファンド)を設定しました。

- 東京都多摩地域・島嶼部の中小企業に投資を行い、地域振興と産業発展を支援
- 東京都様、他7社が外部投資家として参画

投資方針

- 一般的な経済リターンのみを追求する従来型ファンドとは一線を画し、投資先企業や地域社会の声に真摯に耳を傾け、課題解決に取り組む方針

当ファンドが提供する3つの機能について

- ① 円滑な事業承継や事業承継を契機とした新たな事業展開の支援、さらに事業の合併や同業者等による買取を通じた経営者のサポート
- ② 地域に関係するスタートアップの成長支援を推進し、イノベーション創出に貢献
- ③ 観光、医療、介護、製造業、農業など持続可能な社会づくりに資する幅広い分野への投資を通じて、地域資源の有効活用と経済発展を目指す

決算説明資料

2026年3月期 第3四半期

Appendix

≡ アイザワ証券グループ

商号	アイザワ証券グループ株式会社
所在地	〒105-7307 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
連絡先	03-6852-7744
代表者	代表取締役社長 社長執行役員 藍澤 卓弥
創業年月日	1918年(大正7年)7月7日 (1933年(昭和8年)10月3日 設立)
資本金	80億円
従業員数	927名 ※2025年3月末時点

01

ゴールベース アプローチ型営業



ゴールベースアプローチ型営業により、お客さまのライフプランに寄り添い、お客さまごとに達成したいゴールに向けたプランをご提供し、個別売買にとどまらないトータルサポートで資産運用・資産形成を伴走支援いたします。

02

プラットフォーム ビジネス



ライフプランの実現に向けて伴走者を必要とするお客さまを有する、金融商品販売を本業としないIFA業者さまや金融機関さまに対し、金融商品販売に有益な情報提供とサポートを行うとともに、システム等を提供いたします。

03

ソリューション サービス



課題の明確化からアフターフォローまで、個人の相続、経営者の事業承継、法人のビジネス拡大、地域の課題などの幅広いニーズに対し、国内外のアライアンスネットワークを活かした多彩でユニークなソリューションを提供いたします。

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

より多くの人に
より豊かな生活を

Vision

私たちのあるべき姿

資産運用・資産形成を通じて
お客さまとご家族の
人生の伴走者となる

Values

私たちが大切にしている価値観

チャレンジ

行動力
成長
変革

リレーションシップ

信頼
思いやり
安心

プロフェッショナリズム

誠実
責任
使命感

チームワーク

調和
敬意
結束

事業戦略

証券事業の変革

投資事業のグレードアップ

運用事業の再構築

経営機能強化

コンプライアンスの
強化

人的資本投資の
取組強化

生産性の向上

リスク管理の
強化

サステナビリティ
推進

株主還元方針

特別配当

2026年3月期～2028年3月期まで
特別配当(年間1株70円)を実施

普通配当 &
自己株取得

前中期経営計画の方針を継続
普通配当および自己株式取得は**総還元性向
50%以上**、普通配当は**株主資本配当率(DOE)
2%を超える**ことを基本方針とする

KPI

ROE
(自己資本利益率)

8%以上

女性管理職
比率

15%以上

エンゲージメント
スコア

80%以上

ストック商品
預り資産

8,000
億円以上

総預り資産

2兆5,000
億円以上

実質ストック収益
実質販管費カバー率

40%以上

企業価値向上

資本コストや
株価を意識した経営

業績目標

ROE(自己資本利益率) **8%以上** 2025年3月期 **6.3%**

事業目標

ストック商品預り資産

8,000億円以上
2025年3月末 4,233億円

総預り資産

2兆5,000億円以上
2025年3月末 1兆9,661億円

実質ストック収益※1
実質販管費カバー率※2

40%以上 2025年3月期 **28.7%**

非財務目標

女性管理職比率

15%以上 2025年3月末 **13.8%**

エンゲージメントスコア※3

80%以上 2025年3月期 **72.1%**

※1 実質ストック収益:信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額 ※2 実質販管費:アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額
※3 エンゲージメントスコア:アイザワ証券グループのエンゲージメント調査において、当社グループに愛着や誇りを感じる、もしくはやや感じると回答する割合

資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期3Q	増減率
流動資産	70,047	94,859	+35.4%
現金・預金	14,405	38,102	+164.5%
預託金	24,783	27,752	+12.0%
営業投資有価証券	11,230	11,239	+0.1%
トレーディング商品	347	156	△54.9%
約定見返勘定	1,294	878	△32.1%
信用取引資産	15,478	13,179	△14.9%
信用取引貸付金	15,190	12,716	△16.3%
立替金	521	599	+14.9%
その他の流動資産	1,985	2,950	+48.6%
固定資産	39,481	42,486	+7.6%
有形固定資産	11,211	11,280	+0.6%
賃貸不動産	9,259	9,327	+0.7%
無形固定資産	32	33	+2.4%
投資その他の資産	28,237	31,172	+10.4%
投資有価証券	25,208	27,892	+10.6%
貸倒引当金	△8	△7	-
資産合計	109,529	137,346	+25.4%

負債・純資産の部(百万円)	25/3期末	26/3期3Q	増減率
流動負債	51,150	76,615	+49.8%
トレーディング商品	24	-	-
信用取引負債	4,722	2,218	△53.0%
信用取引借入金	4,173	1,491	△64.3%
有価証券担保借入金	482	840	+74.3%
預り金	23,291	46,646	+100.3%
顧客からの預り金	18,927	23,030	+21.7%
その他の預り金	4,363	23,616	+441.2%
受入保証金	4,350	4,450	+2.3%
短期借入金	9,675	8,213	△15.1%
短期社債	6,000	12,100	+101.7%
固定負債	10,618	11,776	+10.9%
長期借入金	5,156	4,901	△4.9%
繰延税金負債	4,994	6,388	+27.9%
特別法上の準備金	160	172	+7.3%
金融商品取引責任準備金	160	172	+7.3%
負債合計	61,929	88,564	+43.0%
純資産の部			
株主資本合計	35,557	34,634	△2.6%
うち自己株式	△8,508	△8,440	-
その他の包括利益累計額	9,007	11,190	+24.2%
その他有価証券評価差額金	7,968	10,419	+30.8%
非支配株主持分	3,035	2,955	△2.6%
純資産合計	47,599	48,781	+2.5%
負債・純資産合計	109,529	137,346	+25.4%

(百万円)	25/3期		1Q	26/3期		25/3期 3Q比 増減率	26/3期 2Q比 増減率	25/3期 3Q累計	26/3期 3Q累計	前年同期比 増減率
	3Q	4Q		2Q	3Q					
セグメント別営業収益連結計	5,681	5,372	4,242	5,694	5,610	△1.3%	△1.5%	15,215	15,547	+2.2%
証券事業	4,778	4,111	4,074	5,417	5,446	+14.0%	+0.5%	13,760	14,938	+8.6%
投資事業	762	1,183	168	236	185	△75.7%	△21.7%	1,224	590	△51.8%
運用事業	173	129	42	78	27	△84.1%	△64.6%	293	148	△49.5%
その他調整	△ 33	△52	△42	△37	△ 49	-	-	△ 63	△ 129	-
セグメント別営業利益連結計	1,009	570	△576	349	319	△68.3%	△8.4%	1,315	93	△92.9%
証券事業	285	△327	△258	525	625	+119.1%	+19.0%	583	891	+52.9%
投資事業	667	915	△137	△183	△ 190	-	-	624	△ 511	-
運用事業	53	△33	△131	△51	△ 111	-	-	△ 83	△ 293	-
その他調整	3	17	△48	58	△ 3	-	-	191	6	△96.8%
セグメント別税引前利益連結計	1,776	756	388	1,172	1,462	△17.7%	+24.7%	3,894	3,023	△22.4%
証券事業	313	△264	△227	509	498	+59.1%	△2.2%	627	780	+24.4%
投資事業	1,335	1,059	746	396	477	△64.3%	+20.5%	3,022	1,620	△46.4%
運用事業	39	△28	△138	△50	△ 102	-	-	△ 103	△ 291	-
その他調整	87	△9	8	317	588	+573.7%	+85.7%	347	914	+163.0%

(百万円)	25/3期		1Q	26/3期		25/3期 3Q比 増減率	26/3期 2Q比 増減率	25/3期 3Q累計	26/3期 3Q累計	前年同期比 増減率
	3Q	4Q		2Q	3Q					
営業収益	5,681	5,372	4,242	5,695	5,609	△1.3%	△1.5%	15,215	15,547	+2.2%
受入手数料	3,779	3,476	3,273	4,355	4,479	+18.5%	+2.8%	10,714	12,108	+13.0%
委託手数料	1,561	1,383	1,432	1,960	1,976	+26.6%	+0.8%	4,385	5,369	+22.4%
引受・売出	24	6	1	32	0	△97.9%	△98.4%	26	35	+32.7%
募集・売出	826	779	785	834	798	△3.3%	△4.3%	2,494	2,419	△3.0%
その他	1,367	1,306	1,053	1,527	1,703	+24.6%	+11.5%	3,807	4,284	+12.5%
トレーディング損益	823	504	647	813	699	△15.1%	△14.1%	2,521	2,160	△14.3%
株券等	723	427	556	696	599	△17.1%	△13.9%	2,084	1,853	△11.1%
債券等	24	24	5	39	36	+48.0%	△7.1%	148	82	△44.9%
為替等	75	52	85	77	62	△16.9%	△19.5%	288	225	△21.9%
金融収益	195	236	158	294	251	+28.4%	△14.8%	648	704	+8.6%
その他の営業収益	882	1,155	162	231	179	△79.6%	△22.2%	1,330	573	△56.9%

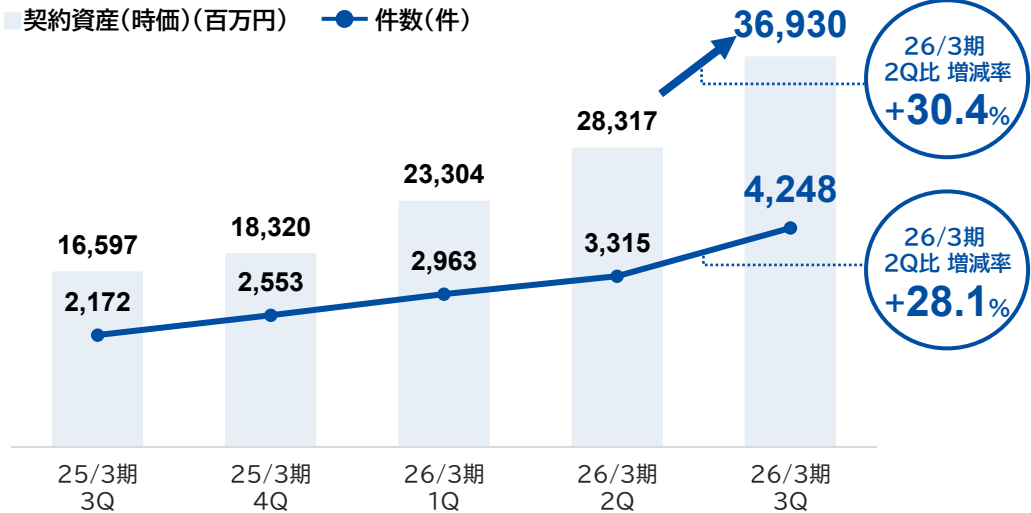
(百万円)	25/3期		1Q	26/3期		25/3期 3Q比 増減率	26/3期 2Q比 増減率	25/3期 3Q累計	26/3期 3Q累計	前年同期比 増減率
	3Q	4Q		2Q	3Q					
営業収益	5,681	5,372	4,242	5,695	5,609	△1.3%	△1.5%	15,215	15,547	+2.2%
株式	2,511	1,988	2,181	2,825	2,755	+9.7%	△2.5%	7,128	7,761	+8.9%
委託手数料	1,561	1,383	1,432	1,960	1,976	+26.6%	+0.8%	4,385	5,369	+22.4%
トレーディング損益・ 金融収益等	949	605	748	864	778	△18.0%	△9.9%	2,743	2,392	△12.8%
投資信託	1,408	1,386	1,401	1,572	1,607	+14.1%	+2.2%	4,070	4,581	+12.5%
募集手数料	826	779	785	834	798	△3.3%	△4.3%	2,494	2,419	△3.0%
信託報酬等	582	607	615	737	808	+38.9%	+9.7%	1,575	2,161	+37.2%
ラップ商品	656	473	348	647	804	+22.6%	+24.2%	1,846	1,800	△2.5%
固定報酬・信託報酬	287	284	276	291	313	+8.8%	+7.3%	868	881	+1.5%
成功報酬	368	189	72	355	491	+33.3%	+38.0%	978	919	△6.0%
債券	27	26	7	41	38	+41.0%	△7.3%	155	87	△43.3%
不動産	123	123	125	127	124	+1.3%	△2.3%	374	377	+1.0%
営業投資有価証券	759	1,032	36	103	55	△92.7%	△46.7%	955	195	△79.6%
その他	196	340	141	377	224	+14.4%	△40.6%	684	742	+8.5%

(百万円)	25/3期		26/3期		25/3期 3Q比 増減率	26/3期 2Q比 増減率	25/3期 3Q累計	26/3期 3Q累計	前年同期比 増減率	
	3Q	4Q	1Q	2Q						
販売費・一般管理費	4,618	4,597	4,575	5,097	5,033	+9.0%	△1.3%	13,538	14,707	+8.6%
取引関係費	1,049	1,002	976	1,318	1,370	+30.6%	+4.0%	2,866	3,665	+27.8%
人件費	2,284	2,244	2,259	2,416	2,324	+1.8%	△3.8%	6,854	7,001	+2.1%
不動産関係費	367	371	373	373	343	△6.5%	△8.0%	1,116	1,090	△2.3%
事務費	655	739	686	686	693	+5.7%	+1.1%	1,924	2,067	+7.4%
減価償却費	65	69	81	85	79	+21.4%	△7.5%	198	246	+24.1%
租税公課	79	80	79	112	98	+24.0%	△11.9%	238	290	+21.7%
その他	115	88	118	105	123	+6.1%	+17.2%	339	346	+2.0%

(百万円)	25/3期		26/3期			25/3期	26/3期		25/3期	26/3期	前年同期比 増減率
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	3Q比 増減率	2Q比 増減率	3Q累計	3Q累計		
営業外損益	173	158	238	96	178	+3.2%	+84.5%	525	514	△2.2%	
営業外収益	229	208	299	157	240	+5.0%	+52.9%	675	696	+3.2%	
営業外費用	56	49	60	60	61	+10.2%	+2.2%	149	182	+22.1%	
特別損益	593	26	726	726	963	+62.3%	+32.6%	2,052	2,416	+17.7%	
特別利益	593	26	726	734	1,241	+109.2%	+69.0%	2,319	2,702	+16.5%	
特別損失	△ 0	△0	-	7	278	-	-	266	286	+7.3%	

契約資産(時価)(百万円)、件数(件)		25/3期		26/3期		26/3期2Q比 増減率
		3Q	4Q	1Q	2Q	
スマイルゴール	契約資産(時価)	16,597	18,320	23,304	28,317	36,930 +30.4%
	件数	2,172	2,553	2,963	3,315	4,248 +28.1%
ブルーラップ	契約資産(時価)	33,919	32,530	33,325	35,008	38,710 +10.6%
	件数	1,490	1,494	1,440	1,415	1,443 +2.0%
ファンドラップ	契約資産(時価)	55,012	50,216	48,992	48,732	48,552 △0.4%
	件数	5,596	5,317	5,021	4,780	4,531 △5.2%
合計	契約資産(時価)	105,529	101,066	105,623	112,059	124,194 +10.8%
	件数	9,258	9,364	9,424	9,510	10,222 +7.5%

ゴールベースアプローチ型ラップサービス(愛称:スマイルゴール)



ラップサービス

スマイルゴール

お客さま一人ひとりの目標(ゴール)から逆算して考えるゴールベースアプローチ型ラップサービス
アフターフォローを通じてお客さまとそのご家族と長期的なリレーションを築きます

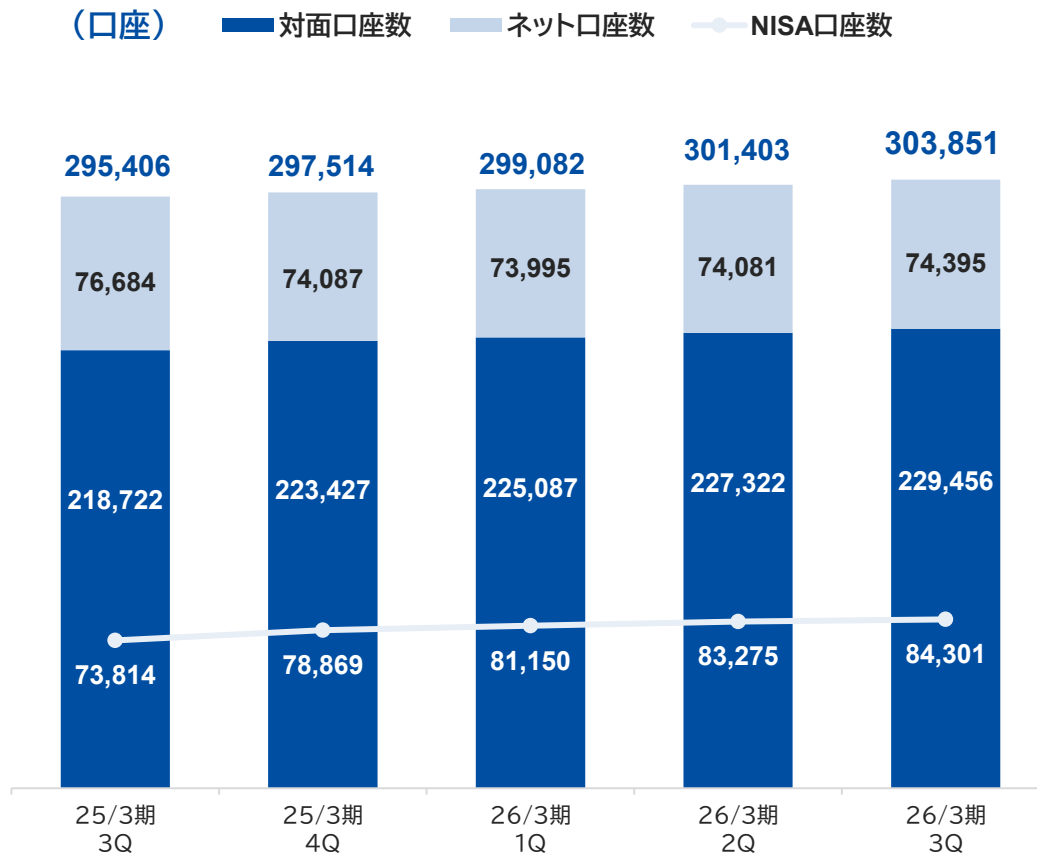
ブルーラップ

- ・アイザワSMAスーパーブルーラップ
- ・アイザワSMAブルーラップ(新規の取扱い中止)
日本株の投資一任運用サービス

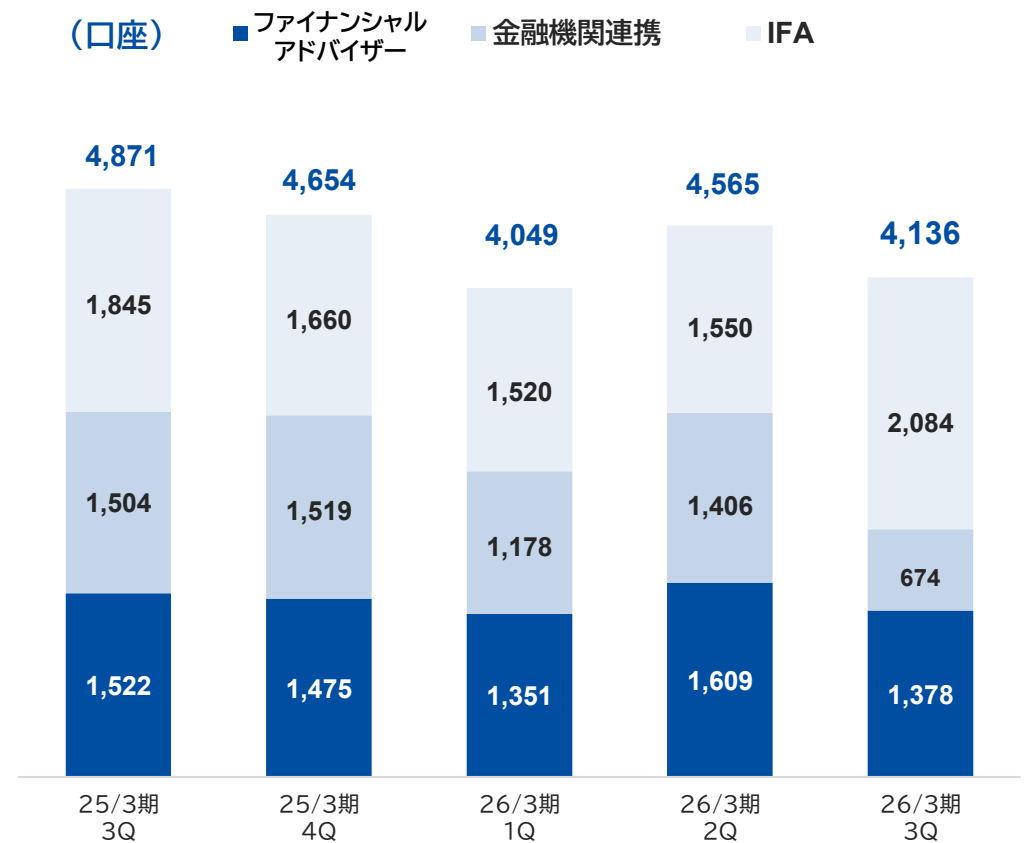
ファンドラップ(新規の取扱い中止)

国際分散投資により、運用・管理する一任運用サービス

総口座数の内訳とNISA口座数の推移

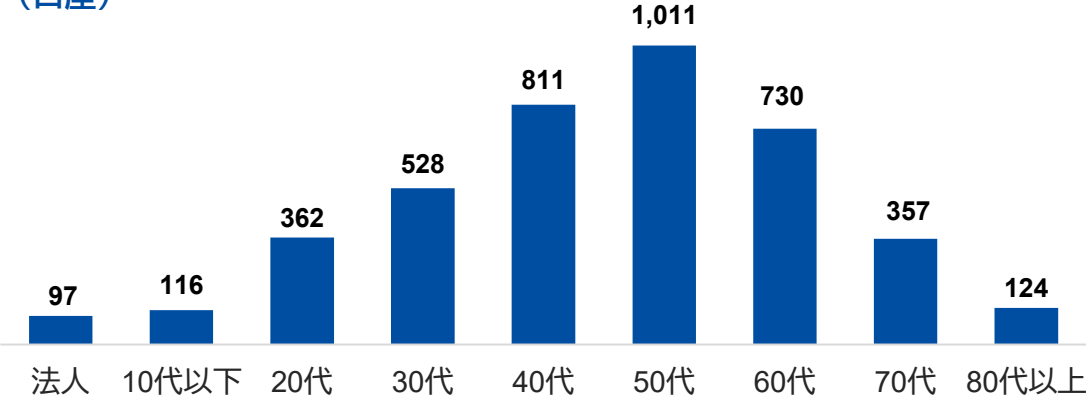


新規口座数の内訳と推移



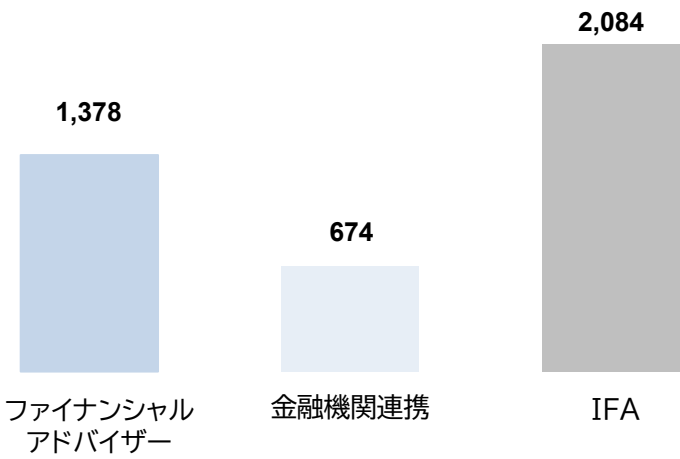
年代別新規口座数

(口座)



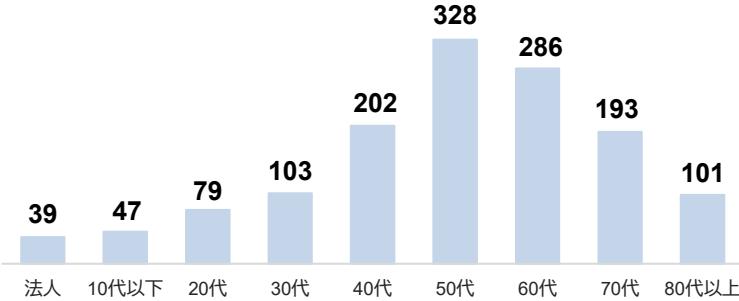
セグメント別新規口座数

(口座)



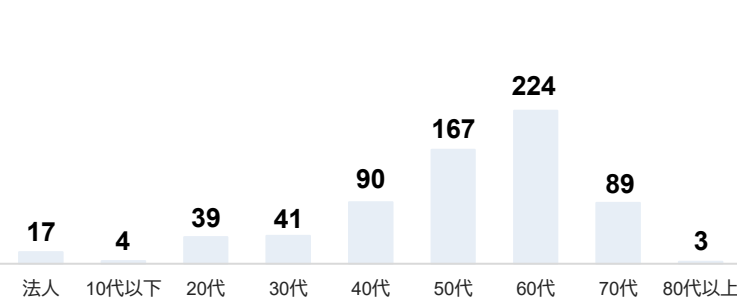
年代別新規口座数(ファイナンシャルアドバイザー)

(口座)



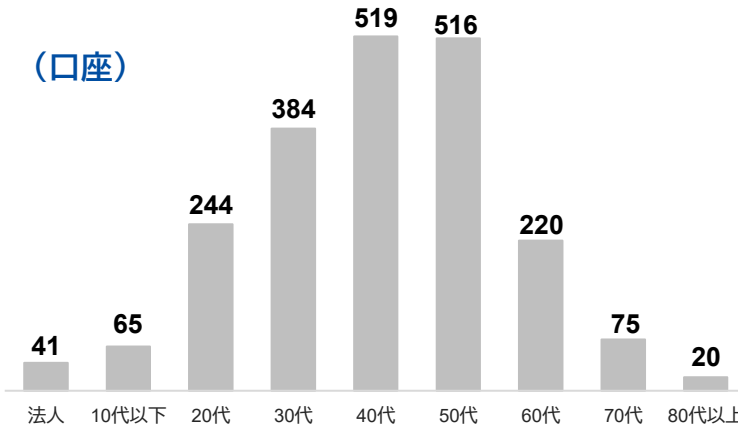
年代別新規口座数(金融機関連携)

(口座)



年代別新規口座数(IFA)

(口座)



株式委託手数料の推移

(百万円)	25/3期		1Q	26/3期		26/3期2Q比 増減率	26/3期3Q 委託手数料率
	3Q	4Q		2Q	3Q		
国内株式委託手数料	1,003	926	946	1,186	1,168	△1.5%	0.23%
└ 対面	865	796	814	1,030	1,005	△2.4%	0.41%
└ ネット	137	130	132	156	162	+3.8%	0.06%
外国株式委託手数料	518	424	457	749	783	+4.5%	1.86%
└ 対面	456	366	391	679	691	+1.7%	1.86%
└ ネット	62	57	66	69	92	+32.5%	1.80%

株式委託売買代金の推移

(億円)	25/3期		1Q	26/3期		26/3期2Q比 増減率
	3Q	4Q		2Q	3Q	
国内株式委託売買代金	3,737	3,605	4,029	4,801	5,115	+6.5%
└ 対面	1,896	1,733	2,143	2,372	2,452	+3.4%
└ ネット	1,841	1,872	1,886	2,429	2,662	+9.6%
外国株式委託売買代金	278	231	244	397	422	+6.2%
└ 対面	242	198	206	357	371	+3.8%
└ ネット	35	32	38	39	51	+27.7%

※ネット… インターネット取引「ブルートレード」
 ※株式委託手数料にETFは含まれておりません。

アイザワ証券グループ

お問合せ先

アイザワ証券グループ株式会社 経営企画部

E-MAIL ir@aizawa-group.jp

URL <https://www.aizawa-group.jp/>